S.Suzuki

THE DIAMOND STAKES　第74回 ダイヤモンドステークス（GⅢ）

	1着	2着	3着	4着	5着
本賞	43,000,000円	17,000,000円	11,000,000円	6,500,000円	4,300,000円
付加賞	350,000円	100,000円	50,000円		

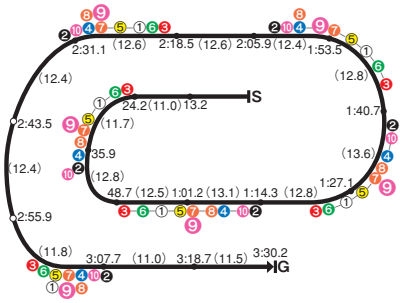
レース映像はコチラでご覧いただけます。

4歳以上、2023.2.18以降2024.2.11まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量　ハンデキャップ

2024.2.17　東京　曇·良　芝3400ﾒｰﾄﾙ　(国際)(特指)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム(着差)	コーナー通過順位	上り(600ﾒｰﾄﾙ)	馬体重(増減)	単勝オッズ	調教師	ﾚｰﾃｨﾝｸﾞ
1	⑨	テーオーロイヤル	牡6	58.5	菱田裕二	3:30.2	5-5-5-5	33.7	452(＋2)	3.1②	岡田稲男(栗東)	114
2	⑧	サリエラ	牝5	55.5	C.ルメール	クビ	4-3-3-3	33.9	432(＋10)	2.6①	国枝　栄(美浦)	107
3	⑤	ワープスピード	牡5	56	菅原明良	1¼	7-7-7-7	33.7	504(±0)	5.0③	高木　登(美浦)	107
4	⑦	ハーツイストワール	牡8	57	田辺裕信	3	5-6-5-5	34.4	482(－4)	14.0⑤	国枝　栄(美浦)	106
5	③	トロピカルライト	牝4	49	丸田恭介	¾	10-10-10-10	33.9	476(－2)	16.5⑥	宗像義忠(美浦)	
6	①	ワンダフルタウン	牡6	57	戸崎圭太	1½	8-8-8-7	34.6	474(－2)	29.2⑦	高橋義忠(栗東)	
7	⑥	ニシノレヴナント	騸4	55	大野拓弥	2	9-9-9-9	34.6	494(±0)	6.8④	上原博之(美浦)	
8	④	メイショウユズルハ	牡5	55	松岡正海	5	3-3-3-3	36.1	490(－4)	167.0⑩	岡田稲男(栗東)	
9	⑩	グランスラムアスク	牝5	52	R.キング	3½	2-2-2-2	36.9	476(＋6)	42.6⑨	矢作芳人(栗東)	
10	②	ヒュミドール	騸8	56	石橋　脩	クビ	1-1-1-1	37.1	480(＋8)	38.6⑧	小手川準(美浦)	

単勝⑨310円(2ﾍｯﾄﾞ)　複勝⑨120円(2ﾍｯﾄﾞ)　⑧120円(1ﾍｯﾄﾞ)　⑤140円(3ﾍｯﾄﾞ)　枠連⑦-⑧400円(1ﾍｯﾄﾞ)
馬連⑧-⑨530円(1ﾍｯﾄﾞ)　ワイド⑧-⑨230円(1ﾍｯﾄﾞ)　⑤-⑨270円(3ﾍｯﾄﾞ)　⑤-⑧280円(4ﾍｯﾄﾞ)
馬単⑨-⑧1,140円(3ﾍｯﾄﾞ)　3連複⑤-⑧-⑨820円(1ﾍｯﾄﾞ)　3連単⑨-⑧-⑤3,670円(3ﾍｯﾄﾞ)



通過タイム：600ﾒｰﾄﾙ 35.9 - 800ﾒｰﾄﾙ 48.7 - 1000ﾒｰﾄﾙ 1:01.2　上り：800ﾒｰﾄﾙ 46.7 - 600ﾒｰﾄﾙ 34.3

アラカルト

- 菱田裕二騎手はテーオーロイヤルで制した22年に続くダイヤモンドＳ２勝目。ＪＲＡ重賞は通算６勝目
- 岡田稲男調教師はテーオーロイヤルで制した22年に続くダイヤモンドＳ２勝目。ＪＲＡ重賞は通算７勝目
- リオンディーズ産駒はＪＲＡ重賞通算５勝目
- ６歳馬の勝利は21年グロンディオーズに続く通算９回目
- 馬単1,140円、３連複820円、３連単3,670円は各式別における本競走の最低払戻金額

テーオーロイヤル *T O Royal*

牡　鹿毛　2018.3.6生
北海道浦河町　三嶋牧場生産
馬主・小笹公也氏　栗東・岡田稲男厩舎
馬名意味・冠名＋王にふさわしい

アルペンローズUSA系　A4

リオンディーズ 黒鹿毛　2013	キングカメハメハ 鹿毛　2001	Kingmambo
		マンファスIRE
	シーザリオ 青毛　2002	スペシャルウィーク
		キロフプリミエールGB
メイショウオウヒ 黒鹿毛　2008	マンハッタンカフェ 青鹿毛　1998	サンデーサイレンスUSA
		サトルチェンジIRE
	アルペンローズUSA 黒鹿毛　1999	Kris S.
		Amizette

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA M3×S4
Mr.Prospector S4×M5　Hail to Reason M5×M5

INTERVIEW

三嶋健一郎専務（三嶋牧場）

能力を発揮できる状態に戻りました

岡田調教師からは状態も調教の動きも良いと聞いてはいたものの、斤量がこの馬だけ重かったので半信半疑な点もありました。骨折で1年間休養した馬ですが、最後の追い比べをギリギリのところで凌いでくれたように、本来の能力を発揮できる状態に戻ってくれたと思いました。今後は相手がさらに強くなるでしょうが、怪我なく無事に活躍してくれることを期待します。

父リオンディーズ

北海道安平町　ノーザンファーム生産　中央5戦2勝（朝日杯フューチュリティS$^{G\text{I}}$、弥生賞$^{G\text{II}}$2着）、最優秀2歳牡馬、17年から供用
〔代表産駒〕**リプレーザ**（兵庫チャンピオンシップ$^{J\text{-}G\text{II}}$）、**テーオーロイヤル**（本馬）、**インダストリア**（ダービー卿チャレンジトロフィー$^{G\text{III}}$）、**アナザーリリック**（福島牝馬S$^{G\text{III}}$）、**ジャスティンロック**（京都2歳S$^{G\text{III}}$）、**サンライズホーク**（サマーチャンピオン$^{J\text{-}G\text{III}}$、兵庫ゴールドトロフィー$^{J\text{-}G\text{III}}$）、**ロジリオン**（クロッカスS・L、京王杯2歳S$^{G\text{II}}$2着）、**オタルエバー**（ラピスラズリS・L、ファルコンS$^{G\text{III}}$3着、新潟2歳S$^{G\text{III}}$3着）、**ストーリア**（関越S^{OP}、中山牝馬S$^{G\text{III}}$2着）

母メイショウオウヒ

北海道浦河町　三嶋牧場生産　中央17戦0勝、地方5戦3勝
トレースイスラ（15 牝父サウスヴィグラスUSA）地方30戦5勝
（16 不受胎）
メイショウハリオ（17 牡父パイロUSA）中央18戦6勝（みやこS$^{G\text{III}}$、マーチS$^{G\text{III}}$、薫風S、小倉城特別、ジュライS・L2着、フェブラリーS$^{G\text{I}}$3着）、地方6戦3勝（帝王賞$^{J\text{-}G\text{I}}$2回、かしわ記念$^{J\text{-}G\text{I}}$、東京大賞典$^{G\text{I}}$3着）㊐
テーオーロイヤル 本馬（18 牡父リオンディーズ）中央16戦6勝（ダイヤモンドS$^{G\text{III}}$2回、尼崎S、兵庫特別、ステイヤーズS$^{G\text{II}}$2着、天皇賞（春）$^{G\text{I}}$3着）獲得総賞金226,436,000円
メイショウカミヨシ（19 牝父ルーラーシップ）中央4戦0勝、地方3戦0勝
メイショウオウカ（20 牝父モーリス）中央5戦0勝、地方1戦0勝
メイショウソウタ（21 牡父ドレフォンUSA）中央3戦0勝㊐
（22 牡父ブリックスアンドモルタルUSA）
（23 牝父レイデオロ）

祖母アルペンローズUSA

北米0勝。03年輸入、17年死亡
メイショウフェーヴ（05 牝父フレンチデピュティUSA）中央0勝、地方2勝、メイショウベルボン（マーガレットS^{OP}3着）、メイショウウチデ（小倉サマージャンプ$^{J\text{-}G\text{III}}$2着、東京ジャンプS$^{J\text{-}G\text{III}}$3着）の母
メイショウドナリオ（06 牡父タイキシャトルUSA）中央3勝
メイショウオウヒ（08 前出）
メイショウカドマツ（09 牡父ダイワメジャー）中央5勝（早春S、松籟S、精進湖特別、寒竹賞、アルゼンチン共和国杯$^{G\text{II}}$2着、ダイヤモンドS$^{G\text{III}}$3着）
メイショウキョウジ（15 牡父ダイワメジャー）中央3勝（船橋S、巌流島特別、北九州短距離S^{OP}2着、北九州短距離S^{OP}3着）、障害0勝、地方2勝㊐

K.Kamite

アクシデントを乗り越え〝隔年制覇〟

2020年は16番人気、単勝325・5倍のミライヘノツバサが優勝、昨年も13番人気のヒュミドールが2着に食い込むなど、近年は波乱の決着が目立っていたダイヤモンドSだが、今年は上位人気の3頭が1～3着を独占。馬単、3連複、3連単の各式別でレース史上最低の払戻金額が更新された。もっとも、勝利を飾ったのは2番人気のテーオーロイヤル。アクシデントを乗り越えて戦列に戻ってきた長距離砲が〝隔年制覇〟を果たし、完全復活を宣言した。

差しに構えてきたこれまでとは一転、好スタートを切って逃げの手に出たヒュミドールは外からグランスラムアスクが並びかけてきても譲らずに先手を主張。グランスラムアスクが2番手に控えた中盤以降は、ほぼ縦一列の態勢でレースは進む。1番人気に支持された5歳牝馬サリエラは抑えきれない手応えで3、4番手につけ、テーオーロイヤルの菱田裕二騎手は直後の5番手を追走。3000㍍の古都S1着、続くステイヤーズSでも4着に食い込み、3番人気の支持を集めたワープスピードは7番手で末脚を温存した。

サリエラをマークし、虎視眈々と仕掛けのタイミングを窺っていた菱田騎手は、直線に向くと相手よりワンテンポ早くスパート。鋭く加速したテーオーロイヤルが前を呑み込み、坂の上りで先頭に躍り出る。内のサリエラも懸命に差し返し、2頭の熾烈な攻防はゴールまで続いたが、400㍍近くに及んだ一騎打ちの軍配は外のテーオーロイヤルにあがった。

メイショウハリオの半弟にあたる本馬は3歳時の秋に頭角を現し、1勝クラス戦から4連勝を飾ってダイヤモンドSを制覇。続く春の天皇賞でも3着に食い込んだ。同年のジャパンC（14着）の後に骨折が判明し、1年近い休養を余儀なくされたものの、復帰2戦目のステイヤーズSで2着に追い込んで復調を示すと、この日は2年前より4・5㌔重いトップハンデ（58・5㌔）を克服して快勝。大目標に見据える春の天皇賞に向けて弾みをつけた。